

# 令和5年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成				
中長期目標	<p><b>1 人間理解のできる生徒の育成</b> 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。</p> <p><b>2 課題意識のある生徒の育成</b> 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的、積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。</p> <p><b>3 自己表現のできる生徒の育成</b> 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。</p>	今年度の 重点目標	<p>1 主体的な学びの推進</p> <p>2 豊かな人間性の育成</p> <p>3 生徒・保護者・地域に信頼される学校</p> <p>4 働き方改革の推進</p>		

評価項目	具体項目	年 度 当 初		中間評価・最終評価		
		現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 主体的な学びの推進	ICTを活用した授業改善と適切な評価	ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を各教科で実践するとともに、開講科目ごとのルーブリックを作成してパフォーマンス評価を実施している。 授業アンケート「この授業は自分にとって満足いくものだった」の間の、肯定的な回答が93.5%。	・教員のICTを活用した授業スキルの向上 ・授業アンケート「この授業は自分にとって満足いくものだった」の間に、肯定的な回答90%以上	・授業アンケートを全教員が実施し、授業改善を行う。 ・各教科ともルーブリックに基づき、パフォーマンス評価を実行する。 ・ICT活用に関する教職員研修会を実施する。 ・Chromebookを活用し、課題等の配信を行う。	・授業アンケートは、12月に実施予定。 ・開講科目ごとに、ルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を行っている。 ・ICT活用に関する教職員研修会は冬期休業中に実施予定。 ・授業内外での伝達、授業で能動的に活動するツールとしてChromebookを活用している。 また、研修会への参加や教科の枠を超えた授業参観により、授業展開の工夫を行っている。 ・SHR連絡、アンケート、課題・資料の配信、小テスト、授業内での活動のツールなど様々な形でChromebookを活用している。	A
	SSH事業に取り組むことで、科学的探究心、情報発信力、実践力を身につけ、よりよい社会の実現を目指すチャレンジャーを育成	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンベンに積極的に打って出ている。 ・総参加者 106件・1131人 ・予選を通過して上位大会へ出場した者 16件・36人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンクールやコンベンへの参加者数 ・総参加者 120件・1200人以上 ・予選を通過して上位大会へ出場する者 20件・50人以上	・「打って出る」の研究と進路目標を結びつける取組を継続する。 ・外部有識者による中間発表指導やフィールドワーク講習により、探究の質を向上させる。 ・学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究発展」の内容を改善し、主体的探究活動のさらなる推進を図る。	・各種科学コンテストや土曜授業などに積極的に参加している。ボランティア活動や海外留学などにも多数参加し、自身の可能性を伸ばそうとしている生徒が多い。 ・化学グランプリで大賞、生物学オリンピックで銅賞受賞など、全国規模のコンテストで入賞する生徒が出ている。 ・週1回課題探究基礎担当者会を行い、「課題探究基礎」の授業内容の精選に取り組んでいる。 ・「課題探究応用」では、「打って出る」目標と研究を結びつける取組により、研究の質が高まっている。 ・「課題探究発展」で「継続課題探究」を選択した生徒73名（昨年48名）全員がイノベーション成果発表会で外部の有識者を含む多くの聴衆の前で発表した。その他の生徒は英語論文を作成した。	A
	高い目標に向かって努力する生徒を育成する進路指導の充実	・国公立大学合格者283名（うち、現役合格者188名）、難関大学合格者54名となった。 ・東京大学訪問に26名が参加	・国公立大学合格者200名以上（現役合格者170名以上） ・難関大学合格者60名以上	・総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試を適切に活用する。 ・個別学力試験対策の強化（授業・講習） ・難関大学訪問の実施	・総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試の適切な活用に向けて、個人面接を実施し個々の能力や資質に応じた指導を行っている。 ・進路意識の向上のための進路講演会、指導方針共有のための担任進路検討会、小論文、論述問題対策の教員向け講演会を行った。 ・中上位層向けの夏期講習、3年放課後講習、下位層基礎学力向上のための基礎セミナー、個別添削指導を実施し、様々な生徒の学力向上に取り組んでいる。 夏期講習 1年：188名（昨年229名） 2年：66名（昨年79名） 3年：419名（昨年543名） 放課後講習 前期：386名（昨年365名） 後期：171名（昨年379名）（延べ数） ・6月実施の家庭学習時間調査 1年：平日1.82（昨年2.19） 休日4.05（昨年4.71） 2年：平日1.98（昨年1.78） 休日4.30（昨年4.56） 3年：平日3.12（昨年2.74） 休日5.60（昨年5.32） ・7月外部模試において偏差値70以上の上位層が10%を切っており、対策が必要である。 ・11月に東京大学訪問を実施し、14名が参加予定。	B
2 豊かな人間性の育成	主体性・自律性の育成	・環境整備委員会を中心に、掃除の徹底を行っている。 ・総遅刻者数は延べ291人で対前年度比8%増であった。 ・問題行動件数は1件であった。	・規範意識の高揚 ・主権者意識の高揚 ・TEASの推進 ・生徒会活動の推進 ・SDGsの推進 ・遅刻者数対前年比減 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底 ・主権者教育や環境教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 ・遅刻確認票による遅刻指導の徹底 ・自転車用ヘルメットの着用を徹底する。	・生徒が自ら進んであいさつする雰囲気がある。部活動での指導の成果は大きい。主体的に自然体で掃除ができる生徒が多数いる。校内美化に貢献している。 ・総遅刻者数は延べ91人（9月末現在）で対前年度比3%減 1年：34名（昨年28名） 2年：33名（30名） 3年：24名（36名） 引き続き遅刻確認票による指導を徹底する。 ・生徒会を中心に校則の見直しを行い、生徒が主体的に活動できるように取り組む。 ・学校祭をほぼコロナ禍前の形で実施し、生徒が主体的に取り組むことができた。 ・自転車用ヘルメットは、ほとんどの生徒が着用しているが、登下校中にはずしている生徒もみられる。 ・安全意識の向上を図りたい。 ・問題行動件数1件（9月末現在）。今後も迅速、適切に対応する。	A
	部活動の推進	全国高校総体飛込競技で優勝するなど、多くの部が活躍した。中国大会出場部活動・個人は50 中国大会出場部活動・個人は24	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック大会以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やすために指導方法の改善と工夫を推奨する。 ・「部活躍報告」を行うことによって、賞賛する機会を設ける。	・全国高校総体で女子高飛込で優勝、女子3m飛込で準優勝した。また全国高校総体選手権大会で男子団体が3位に入賞した。 ・部または個人が出場権を獲得した大会数は、中国地区大会はのべ24（昨年度）から28と増え、全国大会は18で昨年度と同数だった。（9月末現在） ・「部活躍報告」で県大会等で上位に入賞した部活動を表彰し、本校のHPに掲載した。	A
	体験的な学びの推進	・グローバルリーダーズキャンパスは13名が受講 ・小川・早原奨学基金による海外研修に各3名、国費高校生留学促進事業によるオーストラリア研修生16名が参加 ・SSH沖縄研修に25名参加 ・人権教育を各学年で工夫し実施	・人権教育の推進 ・異世代・異文化交流の推進 ・読書活動の充実 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 ・海外研究機関との交流 ・海外研修・積極的に派遣 ・SSHオーストラリア研修、沖縄研修の実施 ・体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開LHRの実施	・台湾桃園市立陽明高級中学との国際交流事業に向けて準備を進めている。 ・グローバルリーダーズキャンパスの受講希望者14名（昨年15名）のうち、6名（昨年10名）が県の審査を通過し、3名（昨年3名）が聴講生として参加予定。 ・小川・早原奨学基金によるロサンゼルス研修に10名が参加予定。 ・3年次生は、SDGsをテーマにした人権教育LHRを実施した。 ・1年次生は、身近な差別について、差別構造の中での自身の立ち位置を検証していく視点を基に体験型ワールドカフェ方式で、2年次生は、マジョリティの側の忌避意識の視点を基礎に、同和問題について公開LHRを実施予定。	A
3 生徒・保護者・地域に信頼される学校	P.T.A活動の充実	P.T.Aの各委員会（総務、人権教育推進、生徒育成、進路）が役員主体で活発に活動している。	保護者と教職員の連携強化によるP.T.A活動の更なる活性化	P.T.Aのニーズに対応した事業内容の見直しを進める。	・各委員会は委員長が主体となり、学校担当者と連携しながら積極的に活動している。 ・米東だより110号、外外の教職員紹介号を発行した。 ・「ロスのこころ」を10月及び2月に発行する予定。	A
	地域への発信	・積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。 ・学校運営協議会を開催し、地域住民の理解と協力を得た学校運営を行っている。	・積極的な学校情報の発信による地域・保護者への学校理解の促進 ・地域との連携強化や学校運営協議会との適切な連携・協働による地域ともある学校づくり	・ホームページにより積極的に学校情報を発信する。 ・学校運営協議会を定期的に開催し、熟議をして地域等との連携を深めた学校運営を行う。	・学校行事を積極的に取材し、ホームページに掲載した。ホームページ更新回数数は56回（昨年52回）（9月現在）。 ・部活動の活躍など生徒の活動を写真やコメント付きでホームページで発信した。 ・クラスルームにより進路資料等を配信し保護者へ情報提供を行うことで、学校理解を促している。 ・学校運営協議会を開催し、学校運営に関する提言を得て、地域との連携を深めた。 ・9月から地域連携活動事業で休日等に図書館を開放した。	A
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	教職員の1人あたりの時間外業務時間は令和4年度は13.2時間/月であった。	「県立学校教育職員勤務時間の上限に関する方針」に定める上限時間を遵守する。	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守するとともに、声掛け等により個々の業務の効率化を促す。	・各個人による定時退勤日を設定することで、教職員の意識啓発を行った。 ・9月末現在の時間外業務時間は、平均14.5時間/月（目標12.0時間）であった。 ・「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守し、部活動の計画表、実績表の確認を徹底した。 ・働き方改革の取組を今後も推進する必要がある。	C
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数と時間を削減する。	・朝礼後に打合せを行い、業務の効率化を進める。 ・ノー会議月間を設定する。	・事前協議を徹底し、会議時間の削減を図った。11月をノー会議月間とする予定。 ・定例の会議を行わず、分掌ごとに日々の打合せを行うことで業務の効率化を図った。	A

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要